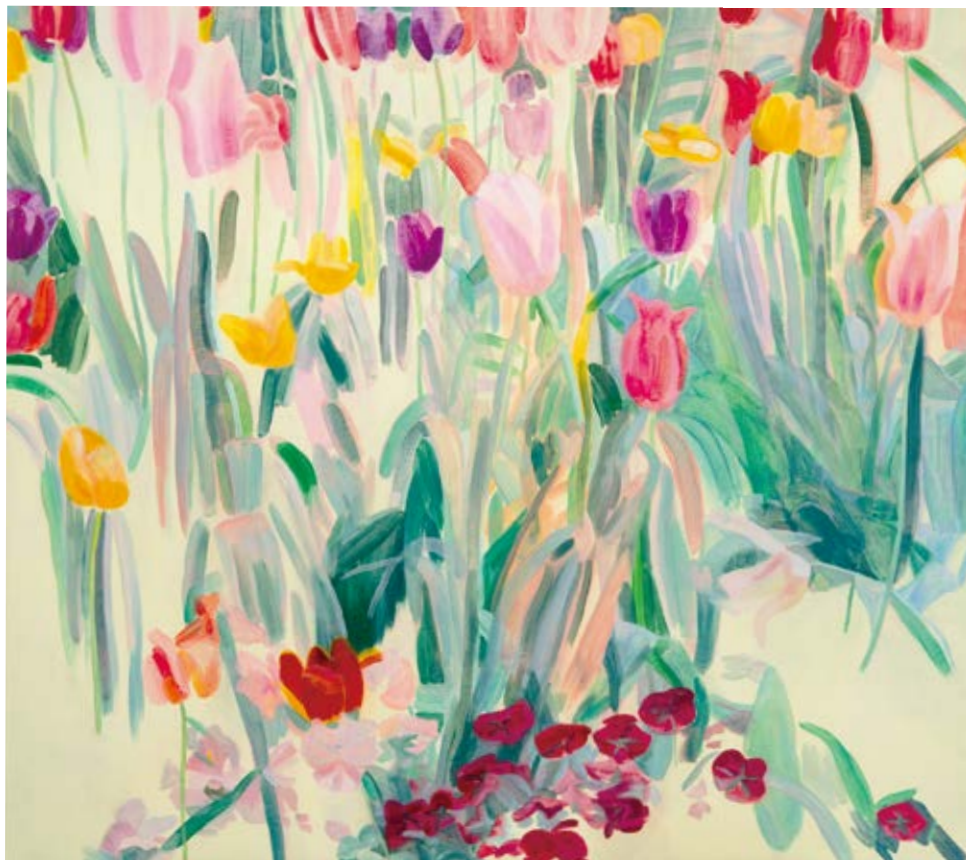


木村彩子 地図を遠くへ



yoyogi koen 13 April(b)
綿布に油彩、蜜蝋 80.0×90.0(cm) 2018年

いつも左手に地図を持って、
間違えないように目を凝らしていたけれど、
思い切った道から外れてみたなら知らない場所にたどり着くかもと、
とりあえず握りしめていた地図を、
見える範囲で少し遠くに置くことにした。

木村彩子展「地図を遠くへ」

Kimura Saiko solo exhibition "put aside the map"

- 会期：2018年10月20日(土)~11月25日(日)
- 開廊時間：12:00-18:30
- 休廊日：月火曜日 (11/3, 11/23は開廊いたします)
- オープニング・パーティー：10月20(土) 18:00-20:00
- 会場：GALLERY CAPTION
〒500-8846 岐阜市玉姓町3-12 伊藤倉庫
tel 058-265-2336
http://www.gallerycaption.info/
- アクセス：JR岐阜駅「北口」、名鉄岐阜駅より徒歩5分
- お問い合わせ：担当/ 山口 (月火曜日をのぞく 12:00-18:30)
tel 058-265-2336 fax 058-265-5715
caption@mbe.nifty.com



参考作品-「風景 10月12日」
綿布に油彩、蜜蝋 25.0x20.0(cm) 2017年(個人蔵)



Miyazakidai 2 April
綿布に油彩、蜜蝋 60.0x70.0(cm) 2018年

木村彩子 | KIMURA Saiko

- 1979 東京都に生まれる
- 2003 東京造形大学絵画科卒業
- 2004 東京造形大学絵画科卒業研究科修了

〈主な展覧会〉

- 2007 個展 "まぼろし日和" (switch point / 東京)
- 2008 個展 "上って下って遠回り" (switch point/ 東京)
- 2009 "Landscape" (ギャラリーキャプション/ 岐阜)
- 2010 "Paintings vol.1 木村彩子×百合草尚子" (ギャラリーキャプション/ 岐阜)
- 個展 "いいきせつ" (switch point/ 東京)
- 2011 "Paintings:02" (ギャラリーキャプション/ 岐阜)
- 2012 個展 "そこにあるきらめき" (ギャラリーキャプション/ 岐阜)
- 2013 個展 "空を飛んでいくところ" (switch point/ 東京)
- "pink noise" (ギャラリーキャプション/ 岐阜)
- 2014 個展 "緑に落ちる" (ギャラリーキャプション/ 岐阜)
- 2015 個展 "地図をたよりに" (ギャラリーキャプション/ 岐阜)
- 2017 個展 "ニューシーズン" (switch point/ 東京)
- 2018 "絵画の現在" (府中市美術館/ 東京)
- "project N 72 木村彩子" (東京オペラシティ アートギャラリー)

〈主な装画、挿絵〉

- 「かけら」 青山七恵 著 (新潮社) 「あかりの湖畔」 青山七恵 著/ 読売新聞夕刊 (2010年7月~2011年4月)
- 「夏の朝」 本田昌子 著 (福音館書店) 「日をめぐる音」 黒井千次 著/ 読売新聞 (2016年4月~)

press release: KIMURA Saiko solo exhibition "put aside the map"

各位

謹啓 秋分の候 皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ギャラリーキャプションでは10月20日より11月25日まで「木村彩子展 "地図を遠くへ"」を開催いたします。本展は、花や緑のある風景を一貫して描きつづけている美術作家 木村彩子（きむらさいこ/1979年東京都生まれ・神奈川県在住）によるもので、当廊では3年ぶりの個展となります。

木村は、草花が咲く空き地や公園の花壇など、気に入った花や緑のある風景をカメラに収め、それをもとに油絵へと展開しています。しかしそれは、ただ単に写真から描き起こしたというものではありません。その途中にあるドローイングは、彼女の制作において、とても重要な過程です。3年前の個展「地図をたよりに」に寄せたステイトメントでは、ドローイングは油絵の画面に向かう「行く道」への手掛かりとなる要素が凝縮された、まさに「地図」であると述べています。

制作ではまず、撮影した写真のイメージと、自分の意識/無意識とを照らし合わせながら、色鉛筆や水性ペンで、何枚ものドローイングを重ね、感覚を掘りさげ、研ぎ澄ませていきます。それぞれの植物が持つしなやかさ、力強い生命感を細やかにとらえながら、全体の葉や花の重なりのリズムから生まれる構図や配色のバランスが吟味されます。そして、あらかじめ丁寧に作られた、やわらかな和紙のような風合いのアイボリーの下地の上に、まるでステンシル（抜き型）の模様のように、モチーフのなかで自身が描きたい部分にのみ、絵具がのせられていきます。そうして生じる余白は、すがすがしい光りの露出を思わせ、また植物のみずみずしい表情をより際立たせています。

ところが今回のタイトルは「地図を遠くへ」。これまで大切に握りしめ、頼りにしていた「地図」であるドローイングを「見える範囲で少しかだけ遠くに置くことにした」というその変化は、この2年ばかりの間に制作された作品に大きく表れています。それはドローイングで定めておいた、綿密に構成されたイメージを描くこれまでの作風とは異なる、自由でのびやかな筆致で表された風景であり、自然の姿です。

昨年、木村はあえてドローイングの手順をふまず、イーゼルを屋外に持ち出し、直接キャンバスに短時間で描くことを試みました。そこには、目の前の光景や、植物の表情が刻々とうつりかわっていく自然の様を、その時々自分の感覚と、画面との直接的なやりとりを通じて、身体で受けとめようと模索する様子が見てとれます。そしてまた、飽きること、尽きることない自然と、あらためて絵画と向き合うことの、新たなよろこびのはじまりが、生き生きと表れています。

本展では、先頃まで東京オペラシティ アートギャラリーで開催された「project N 72 木村彩子」展の出品作品からセレクトした作品に、新作を加えての展示となります。

会期中には是非ご高覧賜り、また皆様にご案内いただけましたら幸いです。よろしく願い申し上げます。

敬具



参考作品-「夕暮れ前の公園」
綿布に油彩、蜜蝋 38.0×46.0(cm) 2014年



ドローイング
紙に色鉛筆、水性ペン 21.0×23.5(cm) 2018年



「植物 10月6日」
綿布に油彩、蜜蝋 50.0×54.0(cm) 2017年